平成３０年度第２回鎌倉市環境審議会会議録

１　開催日時　平成３０年１１月６日（火）午後２時から午後４時まで

２　開催場所　鎌倉市役所本庁舎２階第１委員会室

３　出 席 者　猿田会長、亀山委員、小田委員、廣瀬委員
中村委員、落合委員、山本委員、村田委員、熊田委員

４　事 務 局　石井環境部長、植地環境部次長、戸川課長補佐、兼村職員、
島田嘱託職員

５　議　　題　１．カーボン・マネジメント強化事業について
２．鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）骨子素案について
３．その他

６　配付資料

（事前送付資料）
・鎌倉市カーボン・マネジメント強化事業業務委託企画提案書
（当日配布資料）
・審議会次第
・資料２-（１）-１　省エネ診断施設説明資料
・資料２-（２）-１　鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）骨子案
・資料２-（２）-２　鎌倉市カーボン・マネジメント強化事業予定表
・平成３０年度第１回鎌倉市環境審議会会議録
（当日貸出資料）
・第３期鎌倉市環境基本計画
・平成２９年度版かまくら環境白書（平成２８年度実績）
・鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画

７　会議内容

出席人数の確認後、配布資料並びに前回会議録の修正個所の確認を行った後、議事に入りました。

議題１　「カーボン・マネジメント強化事業について」

猿田会長　それでは議題に入ります。「カーボン・マネジメント強化事業について」事務局から説明をお願いします。

戸川補佐　議題１「カーボン・マネジメント強化事業について」説明。

猿田会長　ただいま「カーボン・マネジメント強化事業について」説明がありました。ご質問、ご意見はございますか。

中村委員　以前に開示されているものだと思うのですが、「こくさいこうぎょう」さんという会社の規模とか実績とかはどこに開示されているのですか。会社の規模と実績です

ね。

戸川補佐　鎌倉市としては、直接開示はしていないです。

中村委員　直接開示はしていない。僕らも知らない。これは公共団体が決めたことですから開示されるはずですよね。

戸川補佐　入札のシステムがございまして、それが鎌倉市のホームページからリンクを出来るようになっておりまして、そこには開示してございます。要は入札参加資格がある事業者ということで、入札参加資格のある事業者が一覧できるようになっていますので、その中に国際航業も含まれております。

中村委員　それを見るしかないですか。それを見れば沿革のようなものはわかるのですか。事業実績のみたいなものを。

戸川補佐　事業実績までは載っているかどうか。

廣瀬委員　公募型ですから、公募している時に、会社概要を出していてそれを配布されたらいいのではないのですか。

中村委員　実はなんでそんなことを言っているかというと、「こくさいこうぎょう」という名前を聞いた途端に、僕らの年代は小佐野賢司をすぐ思い出わけですね。要するに「国際興業」と関係があるのではないかということを、ピンときて、要するに、この会社どういう会社なのかと素朴な疑問を持っているということで。大きな事業ですし公共事業ですからこれを受注した企業は、きちんとやはりこの会社の概要というものは一般市民に対しても公表するべきものであると思います。

戸川補佐　今回のプロポーザルには11社応募がございまして、いずれも入札参加資格をもっている事業者でございますので、資格に問題がないという審査をしてある会社です。企画提案を応募した時に、会社のプロフィール等の提出をして頂いていますので、もしそれをご覧になられたいということであれば、開示はできるようになっています。

中村委員　ホームページ上から見られるようになっている。

戸川補佐　そこまではしてないです。

中村委員　もうちょっとオープンにした方がいいんじゃないですか。大きなお金が動くわけですからね。

植地次長　入札の参加資格については、うちの方で直接審査をしているわけではないので、それについては担当部署と今後どういう対応をするのか、今どういう形でそういうものが明らかに出来るのかもう一度確認させて頂きたいと思います。

猿田会長　中村さんが「こくさいこうぎょう」という会社に対して、何か先入観を持っておられる。

中村委員　「こくさいこうぎょう」という会社にたまたま先入観を持っている。

猿田会長　私なんか年配者ならみんな知っている名前ですね。「国際興業」という名前は。

中村委員　それは単なるきっかけですが、業務委託をしているわけですから、業務委託をされた先の会社の最低限の、一般市民が分かる最低限度の規模、そんな小さい会社にだしているわけはないだろうというのはあるけれども、ある程度の規模と、どういうことをやってきた会社ですということは、先に言っておいた方がいいですよね。なんか隠し

ているみたいにいわれるのはいやじゃないですか。

猿田会長　ただね。今回は、カーボン・マネジメント強化事業業務委託ということですが、環境部だけのことではなくなるのですよ。すると入札を全部そういう形でやらないといけないかどうか、市の方針としてどうなっているかの問題もあります。これだけ特別扱いするとか、そういうことはまた行政内部で検討してもらうこととなる。

中村委員　もちろんそうですね。ここだけで決められることではないと思いますけどね。

猿田会長　そのへんは一般的に公表しているんだということであれば、これも答弁しますけれど、特にそういう手法はとっていませんというのであれば、環境部だけがそれを公にできるかどうか行政内部の問題になってきますので、そのへんは行政側に任せたいと思います。今のご提案については、必ずしもやれるかどうかはわかりません。ご意見として頂戴いたします。

中村委員　やらなきゃいけないと言っているんじゃない。一般的な感情としては、やはり発注先というのはある程度公にして当然じゃないかと思っています。

猿田会長　発注先に対して、審議会として異なる意見を述べる権限はありませんので、その辺はすみませんがご理解を下さい。

戸川補佐　補足ですけれども、今回のプロポーザルについては11社から選定しておりますが、随意契約という契約になります。

中村委員　随意契約なんですか。

戸川補佐　プロポーザルは、企画競争はしているんですが、コンペによる随意契約ということで、随意契約結果報告書というものを鎌倉市のホームページで公表しています。そこには国際航業株式会社、今回の場合は神奈川支店で所在地が横浜市中区日本通17番地。そして契約金額が959万400円。随意契約にしたこととした理由は、今回の事業の趣旨とそれから鎌倉市プロポーザル方式等の実施に関するガイドラインに基づく公募型プロポーザル方式により選定したものであることと、公募の結果11社から企画提案がありまして国際航業株式会社神奈川支店が最優秀として決定しましたということは公表しています。その中に会社の概要などは含まれてないので、会社の概要などは申し訳ないですが、それぞれ調べて頂くような形になろうかと、現状はそうなっています。

廣瀬委員　「こくさいこうぎょう」の文字を説明して下さい。

戸川補佐　「こくさい」は、インターナショナルの国際、「こうぎょう」は航空会社の「航」に「ぎょう」は「わざ」（業）です。

中村委員　小佐野賢司と違いますね。

猿田会長　私たちが知っている会社とは違いますね。ローマ字で書いてあると同じになってしまいますね。あそこではないかと思ってしまいますね。

中村委員　あちらの国際興業も今は悪いことはしてはいないんでしょうが。

猿田会長　昔はね、よく新聞を賑わしたんだけどね。

植地次長　今おっしゃっていた実績ですが、この委託の事業はカーボン・マネジメント強化事業という国の補助金対象となっている事業ですので、他の自治体でもやられている事業です。他の自治体でこの事業をやった実績があるか、あるいは類似の事業をやった

実績があるか、を審査の対象とさせていただいていますので、うちの市のカーボン・マネジメント強化事業を受けられる実績はそのへんを見させていただいています。

亀山委員　補足してよろしいでしょうか。ちなみに環境関連のコンサルでは国際航業さんはポピュラーな会社さんです。それを踏まえたうえで、どこまで行政が情報を開示する必要があるかということについては、中村委員がいっていらっしゃることももっともだと思いますが、名前が公表されておりますので、気になる方はインターネットなりで、各自で調べて頂いて、それで問題だと感じた場合は、その時点でさらに情報を請求するというプロセスのほうが一般的ではないかと思います。

中村委員　そのとおりだと思いますね。単純に国際航業という会社と随時契約しました。つきましてはこの会社のホームページはこういうところですので、興味ある方はごらん下さいぐらいのことで充分だと僕は思います。ただそのガイドみたいなものを載せるか載せないかによって、載せることによって行政の姿勢みたいなもの、どうぞご覧になってくださいという姿勢なのかね、何も探さないと出て来ないというのとでは、受け止め方が違うのですね。その辺だけは気を付けたほうがいいと思います。丁寧にやったほうがいいということです。

熊田委員　私も一応名前を聞いた時にインターネットを見たんですよ。会社の業務内容とか規模が出ましたので、名前まではっきりしているのであればホームページを見てくださいというのはまあ差し支えないかもね。

猿田会長　それは各自の責任でご覧いただければいいと思います。他にどうぞ。

山本委員　初歩的な質問かもしれませんが2点ほど。まず、４ページの資料の一番下のところに施設分類ごとのＣＯ２排出量が載っていて、これをみると一番大きいのが、上下水道等施設で、２番目が処理施設ですが、次のページの施設モデルを選定する表の中には、この上下水道の処理施設が入ってない。上下水道が入っていないのは県営施設だから入れてなかったと思うのですが、処理施設は市営じゃなかったかと。処理施設というのはごみ焼却場とかそういうものではないのですか。

廣瀬委員　上下水の下水は市です。

山本委員　下水は市ですれども、ごみ焼却場なんかも処理施設に入っていて、それは市だと思うのです。これがモデルに入っていないのはどういう理由ですか。今日ご説明があった、新たに頂いた資料の２－（１）－１の中にも処理施設の調査が入っていなかったのはどういう理由ですかというのが一点。もう一点が、８ページの上の方にＣＯ２排出量の原単位というのがあって、面積で評価していますね。面積で評価するのが本当に良いのかと思いました。例えば、市役所だったら普通のオフィスですからいいのですが、例えば、芸術館とかスポーツ施設だったら、同じ面積でも容積が非常に大きいので、そこを空調するとしたら、そのための費用とかがかかるという問題もあると思うので、本来であれば面積ではなくて容積で評価すべきではないかと思ったので、その２点です。

戸川補佐　まずは一点目ですが、資料の２－（１）－１の１ページの最後の段落のところですが、詳細の調査について国際航業としては、公園施設や処理施設、上下水道施設、その他の施設は、照明もしくは搬送設備（ポンプ等）が多い特殊施設が多く、建築物の

省エネ診断対象とはなりにくいためということで、今後、簡易調査としてウォークスルー調査を実施して把握していく予定との説明を受けております。

中村委員　ウォークスルー調査とは何ですか。

戸川補佐　中を歩いて温暖化対策について問題があるようなことがないかどうかということを調査することです。

中村委員　計測はしないのですか。

山本委員　調査するのは難しいということですか。実際にどのくらい排出しているかどうかを調査するのは難しいということですか。

戸川補佐　排出している量はエネルギーの使用量でわかるのですが、どういう風に改良していくかについてです。

植地次長　建物そのものがエネルギーを非効率に消費しているとか、そこで使われている機器の機能そのものがエネルギーを非効率に消費しているとかを見ます。ごみ処理施設はごみを焼却するためにエネルギーを消費しているので、ごみの量を減らせば当然エネルギーの消費量も減るため、建物そのものの診断をして建物に手を加え改善をする趣旨とはそぐわないので、今回は外しています。

山本委員　ＣＯ２排出量はごみの量だけに依存するのではなくて新しい施設を入れればもっと効率的に燃やせるとか、燃料少なくて燃やせるとかそういったこともあると思うので、そういった視点は入っていないということですか。

植地次長　施設そのものの改善になってしまいますので、そこまで大がかりなものはあまり現実的ではなく、診断をして改善をするという趣旨からは外れているので今回の対象にはしていません。

山本委員　やはり処理施設は大きい。排出量2番目ですから。

猿田会長　ですからこちらとしても、施設をもっともっと高効率のいいものにしようという意識はあるのでしょうけども、それだけのために全部更新しなきゃいかんというのは、市の予算とかいろいろありますから、ＣＯ２だけのために全部新しくしましょうというのは可能かどうか。これはまた別問題なのですね。要するに長期計画の中でこの施設は20年使いましょうとかいろいろ計画もある訳で、その中で毎年どれだけＣＯ２排出量の減少に貢献できるような対策が出来るかが問題であって、そういう面から今回のマネジメント計画をやっていくわけですから、この施設を古くなったから替えましょうとそう簡単にいくものじゃありません。そのへんはご理解下さい。

戸川補佐　原単位についてですが、原単位だけでやるとうものではなくて、やはりエネルギーの使用量の大きい所を詳細調査するのが、いいんですけれども、例えば同じような施設でその施設だけ突出して、平米当たりの排出量が多いような場合に、それを注目して、なぜかというところを洗い出すというような視点でございます。確かに山本委員がおっしゃるように容積でという考え方もあるのかと思いますが、今回は床面積を用いているのと、排出量が多い施設とそれから築年数ですね。その三点でもって詳細施設を抽出しているという視点で行っております。

猿田会長　山本委員がおっしゃるのは、平米当たりより容積、例えば体育館などは天井が

高い。同じエネルギーを使うにしても効率が悪くなるという状況になる。最近各地で事故や自然災害で体育館が避難所になり、冷暖房が問題になりましたよね。効率が悪いってことでいろいろ問題になったりしていますね。体育館は天井が高いですからね。同じエネルギー量では小さな部屋より悪い。ただ一概に容積といえるかどうかという問題もあるんですね。

山本委員　国際航業さんがこのように評価しているってことは、世の中一般ではそのように評価しているってことですか。経験のある会社ということですから。

戸川補佐　今回５分類をして類似している施設の中でそのようにして行っている。学校であれば、どこでも体育館はあると思いますので。

熊田委員　ちょっと伺いますが、全体的に見ていますと鎌倉市らしいところが抽象的にはでてくるのですが、そういう配慮はこれからされるのかどうか。もう一つは防災の問題について、最近いろいろな課題が出て来ていますけれども、必ずしもこの計画にプラスの方向にいくとは限らない。そういう配慮をすることによってマイナスの方へいくことの可能性も考えられると思うのです。先ほど国際航業のホームページを見たところが、こういうことに手馴れている会社だなとは思ったのですが、今までの実績がそうであって、今我々が考えなきゃいけないことの一つとして、今私が言いました「鎌倉らしい特徴」というのをどこかに盛り込めないかなということと、防災に関して配慮しておかなければいけないことはないんだろうか。一般論的な質問ですけれど。

戸川補佐　「鎌倉らしさ」については、今回の企画提案の中では「鎌倉らしさ」は出てこないんですが、この後、骨子草案をご説明いたしますけれども、その中で皆様の意見を頂きながら入れられる部分は入れて行きたいと考えております。例えば、鎌倉では植木剪定材がかなり多いので、それをバイオマスエネルギーとして地産地消で活用できないか。そういうことも今検討を行っておりますのでそういう部分を盛り込んで、活用して行けば、市の施設にエネルギーを供給していくことによってＣＯ２排出量を減らすとか、そういうことを盛り込んで行ければと考えております。防災については、直接的に温暖化対策の計画のなかで、盛り込めるかどうかですが、太陽光パネルをつけることによって、緊急時にはそれを蓄電池に溜めておいて何時間かはそういう時に使うとか、そういう部分については書き込むことは可能なのかなと思います。ただ検討の中に載せられる施設が候補として挙がってくるかというのはありますが、一般的な話では書き込めるのではないかと思います。

熊田委員　ありがとうございます。

中村委員　熊田委員の話は両面ありまして、とてもいい話なのですが、カーボン・マネジメントに関するいろいろな経験も持った会社であると同時に、委員がおっしゃったように「鎌倉らしさ」というのをどこかに盛り込みたいですよね。全国画一的なカーボン・マネジメント対策みたいなもので、どんどん進んで行くよりも、地域に密着された鎌倉らしい側面というのをどこかに入れて欲しいなと思いました。国際航業さんにも一回リクエストしたいですね。

村田委員　現在、鎌倉市役所の前にあるビオトープがあるのですが、こちらは、過去に私

がつくってみてはと提案差し上げたものを、市が受け入れてくださり、つくってくださったものです。子どもたちと協働で、谷戸の自然の水辺を観察しにいって、湿地の植物などを観察して、その地域の自然生態系の縮図としてつくっていただいたものでした。今でも、市が主催されて、子ども向けの環境教育のイベントをされているとのこと。そこに親子で参加したお母さまが、いくつか体験した中で、子どもが「一番楽しかった」と言っていたのが、このビオトープの生き物観察だったそうです。それだけ、将来世代の子供たちの心に、響くものになっているのかなと思います。ビオトープというとささやかですけれど、鎌倉の典型的な環境の１つである、谷戸の自然環境の縮図・モデルケースとしての意味をもつと、私は思っています。今後小学校などでもそれぞれ、省エネ対策などをしていかれると思います。その中で、もし環境教育の視点も含め、緑化という形で地球温暖化対策をすることがありそうなら、せっかくなら、市役所前のビオトープをモデルケースとして、地域の自然生態系保護や生物多様性の視点も盛り込んだビオトープを各小学校につくるなどしていってはいかがでしょうか。地球温暖化を防ぐ手段の１つとして、「緑化」があると思います。この緑化が、生物多様性の視点を併せもちながら地球温暖化防止に貢献できるのであれば、１つの「鎌倉らしさ」につながるのではと思います。

猿田会長　皆様から鎌倉らしさのご発言があったのですが、この審議会が出来て環境基本計画を作って、もう20年前のことになりますよね。その時に「鎌倉らしさ」を入れられないかという話がでて、鎌倉らしさって一体何なの、結局結論が出なかった。難しい。そのなんていうんですか、現象そのものはそれぞれ違いますよね。どれが鎌倉らしいのか。単に節電をするのは鎌倉らしさも関係ないわけですね。単に電力を使用するのを減らせばいいわけで。自然や緑を保全しましょう。これが鎌倉らしさなのか。これもあたりまえのことなのですよね。緑を残すのは大事なことであって。観光都市鎌倉、商業都市鎌倉、どういうとこにポイントを置いて判断するのか。そこに難しさがあったのですね。その鎌倉らしさの中でどういうことが欲しいのか、期待しているのか。それをある程度出して行かないと。ただその言葉だけでは非常に難しいのですね。対応するのが。一体なんであろうか。

山本委員　その件で以前私は都市マスタープランの委員でした。あの時も鎌倉らしさって提示してみましょうというとやはり出てこない、それで私が原案を作って鎌倉らしさってこういうことでと提案したのですが、やはりまとまらない。鎌倉らしさっていうけれども、みんなが違うことを思っているのではないか。みんな同じではないんじゃないか。都市マスタープランに本来入れるべきものであると思ったのですが、結局鎌倉らしさって決められなかった。そういった事情もあって実は確かに難しい。

猿田会長　なんとなくわかるのね。

中村委員　すぐは決められない。谷戸の話、あるいは中央公園の話でも、ぱっと食いつきやすいというか入りやすい。ところが、沖縄の名護という所に新しい市役所が出来た。20年以上前ですけれども。一切空調を使わなかったんですよね。一切空調を使わない市庁舎をつくったんですよ。海の風を取り入れるという建築をして。でも最終的にその後

どうなったかというとＯＡ機器がどんどん発達して来てコンピューターが錆びてしまうということになって、何十年か後になって窓を付けたというようなこともある。そういうように「らしさ」というのは変わってくるものなんですね。環境によっても、生活によっても。でもその「らしさ」を求めなければ、例えば沖縄の名護が市庁舎に一切空調を入れないで窓も付けなかったわけですよ。全部風を入れたわけですよね。それは一つの提案としてものすごく衝撃があった訳です。建築に対しての。そういうことの提案と実践の繰り返しの中から勉強していくものだと。だから委員がおっしゃるように「鎌倉らしさ」というものは、すぐは決められないんだと僕も思います。でも作り上げて行かなきゃいけない。発見していかなければいけないものだと思いますね。「鎌倉の谷戸」というを自然団体の方がよく言われます。ある意味では、それも題目のようになっていってはいけないと思います。実際にはそういうことを試してみて、それを試行錯誤しながら次の方向にいくというような姿勢が必要だと思います。

熊田委員　「鎌倉らしさ」を大前提にした計画ですよ。というのはなかなか難しいですよ。この計画の中にいくつかは「らしさ」を盛り込んでありますよ。そんな恰好にならないかなと期待して言ったのですが。

中村委員　大上段に上から振りかざしてしまうとたいへんなことになる。

熊田委員　大上段に上から振りかざしてしまうとなかなかね。そういって考えると本質や範囲が入るのか入らないのか私なんかよくわからないことになりますね。それはこれからの話なのかと思います

猿田会長　それぞれ考え方は違うと思いますけれど、狭い道でもそれが鎌倉らしさなんだよと言う方もいらっしゃるだろうし、自転車に乗って走りにくいんだから舗装しろ。またそれに対して反発も出てくるであろうし、何がそうなのかっていうのは10人10色といってしまえば早いんですが、考え方が違うかもしれませんが、何かあるんですよね。定義づけしようとすると大変だけれども、みなさんが感じることで、何かあれば、明確には書けないにしても受け止められるような形になればいいんじゃないかと思いますよ。長年審議会に関わってきてしょっちゅう出るんですよ。でもどういうことがいいのってなるとなかなか結論が出ない。しかし皆さんがおっしゃるので何かあるんですよ。フィーリングとして感じるものが出てくればいいのかなと思いますよ。１+１が２ですよではなく、大きくなったり、場合によっては小さくなったり。皆様の知恵を出してまとめていくしかないんですよ、鎌倉らしさに対しては。

村田委員　鎌倉の一般的なイメージというと、「海があって、山があって、歴史があって、自然がある」というものですよね。観光客はもちろん、地元の方も、その魅力を大切に思われているのではないかと思います。「皆さんが愛して止まない、そうした鎌倉を持続可能に未来に引き継いでいくために、省エネの対策をこのように計画しています」、といった位置づけにすると、省エネの計画の中に鎌倉らしさを盛り込む１つのあり方となるのではと思います。

猿田会長　他にどうぞ。

廣瀬委員　ただ今議題の案件は、鎌倉市カーボン・マネジメント強化事業でこの中で候補

地、候補施設というのは単位面積当たりの負荷というのは勘案したけれども、結果的に排出量で決めました。これでよろしいでしょうか。

戸川補佐　はい。

廣瀬委員　それから、ＣＯ２の削減についての取り組み事業ですので、他にも燃料を使うようなものもありますけれど、今回の議論の幅というのは、建物のエネルギー消費に限っているということでよろしいでしょうか。プラントも除外するし、建物に関しては電気の消費量から言ってＣＯ２の排出量を一定の係数で出しているのでしょうけども、その中でデータに基づいてやる訳ですね。改善したら軽減されるでしょう。先ほどの説明ではプラントに関してはウォークスルーするだけ。目視で有機的な判断をするだけという説明でしたから、今回の議論の幅というのは、建物の電気の消費量を削減して行くという範疇で、カーボン・マネジメントしていく。それでよろしいんですか。他の自動車による排出そういうものは、環境問題としてあるけれども、このカーボン・マネジメント事業の取り組みの中では、そこは建築物の中での電気消費量に焦点を絞って調査、提案をしていきます、ということですか。

戸川補佐　詳細調査につきましては、廣瀬委員のおっしゃるとおり、電気の使用量についてなんですが、この鎌倉市のカーボン・マネジメント事業については、ほかの燃料、ガソリンとか重油などすべて対象としますので、それはそれでまた別に検討は行います。

廣瀬委員　この提案の中にはどこに書いてありますか。今議題になっているのは企画提案書の中身の説明ですよね。その中で車とかそういったものについてはこの中に入ってないですよね。記載がありますか。

戸川補佐　温室効果ガスなので、骨子素案の中で説明いたします。

廣瀬委員　それは分かりますが、この提案の中には建築物だけなんでしょ。業務委託受けてやるのは。車のＣＯ２削減についての提案についても言及するようになっていますか。この委託契約の中では。

戸川補佐　委託契約の中では、例えば１１ページのところに温室効果ガスの削減効果の算定というのが出てきます。運用の改善によって、例えば自動車なんかもエコドライブで運転すればガソリンの節約になってきますので、ここには直接の記載はないんですけれども。

廣瀬委員　私の質問は、どこに書いてありますかと聞いているんです。今後記述していくようになっていくのですか。

戸川補佐　今後計画の中では記述してまいります。

廣瀬委員　そうですか。わかりました。例えばですけれども、地球レベルの話をしているわけです。国レベルの約束になって、小さい自治体ですけれども、その中で何ができるか。例えばこの国の電気が極端な話、全部原子力でやるようになると、この基準値というか目標達成値は変わるものですか。

戸川補佐　変わります。

廣瀬委員　今はある時点の排出係数ですかね、電気量に対しての。その係数によって、40％削減するにはという議論の前提でよろしいでしょうか。

戸川補佐　はい。

小田委員　似た視点のところが気になってまして、４０％排出削減の目標の３分の２は電力の原単位で決まってしまう。１３％というのは１年で１％減らせばいいということで、それだけの成果で良しとするのは何かもったいないような気がしまして、１３％ではなくって４０％の削減は電力の原単位に関係なく、電力の消費量として、４割目標は高いですけれど、そんな意識で国際航業さんに頑張って頂く形が一番望ましいのかなと思って伺ってました。今、挙げられた５施設は市のＣＯ２排出量の半分弱ぐらいなので、そこだけターゲットにするのは若干勿体ない感じがするんですけど、でもその部分の電力消費が減るのであればすごくいいと思います。

山本委員　コストについてなんですけど、削減策をこれから決めて行く時に、そのためにどれだけコストがかかるか。つまり同じ容量のＣＯ２削減するために、コストが安いほうがいいわけですね。その評価というのはこの一連の作業のステップの中でどこらへんでやられる予定なのでしょうか。

戸川補佐　コストにつきましても現在５施設については詳細調査を終えますので、今後その中でどういったことができるのか、その提案を委託事業者の方で検討しているところでございます。次回の審議会ではそういうとこともご披露できるのかなと考えています。

山本委員　現在進めているのですか。一番少ないコストで一番大きな効果をという視点での作業を進めている。

戸川補佐　はい。

亀山委員　質問というより、確認なんだと思うのですが、二つ目の議題である実行計画とカーボン・マネジメント強化事業との関連性を確認させていただきたいと思います。実行計画の方は２０３０年度までの１０年間の計画だと。それに対してカーボン・マネジメント強化事業に対しては、今年度で何かにお金を使うというような話だと、前回伺った気がします。そういう意味では長期的に取り組んだ方がいい事業と今年度で早めにやって効果的なものをきちんと分類する必要があると思っていまして、その意味でも国際航業さんにその意味を含めた上で協議を続けて頂きたいと思います。それはどういう意味かというと、例えば今回診断対象とした施設の一つが、市役所の建物になっていますが、確か前回ここで議論したように、新しい市役所をもう少しで建てるんだと決まっているようなところは、今からここに何か設備を作るよりは新しい庁舎を建てる時に断熱のしっかりしたいい建物を建ててもらう方にお金を使ってもらった方がいいと思うんですね。それで、屋上に太陽光パネルをのせるんだったら古い建物よりむしろ新しい建物に取り付けたほうが、一回の投資で長い年数使用できる訳ですから、必ずしも古い所ばかり選ぶ必要もない訳です。今回の企画提案書で書かれたプロポーザルは網羅的でありますけれど、網羅的メニューすべてを５施設にやることがいいというわけでは決してなくて、それぞれの施設に応じて一番好ましい、あるいは優先すべき事業っていうのがこの中から選べるという感覚なんだと理解しております。そのあたりを改めて確認させていただきたいなと思います。

戸川補佐　まず市役所につきましては、移転をしたとしてもここは残って、例えば今ある

生涯学習センターなどを持ってきたり、図書館をここに持って来たりということで市役所以外として活用する計画がございますので、その場合に大規模な修繕というよりは今回詳細調査した中で例えばヒートポンプとかそういうものは、運用改善したらこういう風になりますよとか、そういう提案が出てくるのかと考えております。太陽光パネルを乗せる施設につきましても今回詳細調査をした５施設につきましてはある程度築年数がたっていますので、国際航業さんはおそらくそこは考えてないのかなと思います。太陽光パネルについては提案の中では航空写真とか施設の屋根構造で判断して、当然先ほど亀山委員がおっしゃったように長く使えるようなところがあれば提案をしていくような内容になっています。古い施設に乗せることはないと考えています。それから今回の委託事業と、この後説明する骨子素案ですが、今回、委託事業の中で調査、検討していただいた内容を骨子素案の方に盛り込んでいきまして短期的なロードマップ、中長期的なロードマップなども今回の委託調査の成果として載せていくような組み立てになっております。

亀山委員　わかりました。この建物を取り壊すのかなと思い、今の発言をしてしまいましたので。

廣瀬委員　そこは確認して頂けますか。本庁舎機能を深沢に持って行きますと宣言して今、住民投票の対応をしていますけれど、その後に図書館機能を持った建物にするというお話はなかったでしたか。このままの建物で何に使うかと決まっていますか。そこは今の話に関係するので、この建物が無くなるのであれば、太陽光なりを耐震の問題がある建物の上に乗せてどうするんですかっていう話ですね。そこは所管課ではないと思いますので確認してください。自信持って言えるのであればここは残るのですと今おっしゃっていただいて結構ですが。

植地次長　その点は確認させていただきます。ただし、今回業者の選考会には本庁舎移転を所管する課長も委員に入ってもらった中で、このような国際航業の提案について特段の指摘はありませんでした。今回国際航業が提案したモデル施設はあくまでも２０３０年度を見据えた形でのモデル施設で、２０１３年度に比べて２０３０年度このモデル施設をいかに省エネ化していくかということで、選定した提案です。このモデル施設だけでなく、例えば小学校は御成小学校をモデル施設としてピックアップし、他の小学校もモデル施設の御成小学校の改善策を運用してやっていく、そういう組み立てになっています。本庁舎の今後の計画がどこまで詰まっているのかについては担当課に確認させて頂きます。

廣瀬委員　本庁舎等整備委員会では議論がでているはずですので、今のご発言が意外ですので確認してください。どなたが委員会に入っていたかはあまり関係ないので、結論を教えて下さい。

猿田課長　これは国際航業が内容を検討しているに当たって将来の増改築は必要になってくるわけだから。それを向こうが承知したうえでやっているかどうか。今のご質問のようにわからないところは明確に示してやらないと向こうも将来計画が難しいです。

戸川補佐　再度確認いたします。

猿田会長　次のテーマがあるので議題１はこの辺にしておきたいと思いますが、結局は影響されるのは、エネルギーが何であるかが重要な問題になってきます。そうかといって９電力、沖縄入れると１０電力。沖縄は原子力がないですから別として、原子力がどれだけ入ってくるか、排出係数が変わってくるその辺の問題がありますよね。国の方は２９％で止めておこうとしている。後は火力、水力を使う。一般の我々の方からすれば再生可能エネルギーを利用した電力を、電力自由化になって契約上はＣＯ２の排出係数の低い所と契約出来ますよね。潮流に全部乗ってきているかは別として、契約だけは出来る。その辺も将来の削減の上では重要になってくるわけですよね。東電以外は使いませんとなるとなかなか下がらないし、その辺をどうするのか。その辺が最終的にね。そうすると鎌倉として、ごみ処理場からでる排熱による発電だけに頼る訳にはいかないですし、どういうところのエネルギーを使うのか。そのへんもまたそういう影響があるかないかも問題になってくる。地産地消が地元で可能かどうか、そのへんも含めて検討して頂きたいと思います。今後の実行計画の中ででてくるのかと思います。それでは議題（２）「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）骨子素案について」に移りたいと思います。

議題２　「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）骨子案について」

猿田会長　それでは議題２に入ります。「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）骨子素案について」事務局から説明をお願いします。

戸川補佐　「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）骨子素案について」説明。

猿田会長　ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。

廣瀬委員　計画の対象なんですけれども、６ページの「すべての市有施設を対象とします」のあたりなんですけど、取り組みとしては事業活動全部なんで、車ですとかそういったものも後の記述もあるんで、その辺の表現を配慮していただきたいと思います。あとこの実行計画に事業はぶらさがりますか。施策までは目標、基本的な方針ですとか施策が並んでるんですけど、その施策には事業が、その施策を達成するための事業が必ずぶらさがりますよね。関連づけられた事業が。課題があって課題を解決するための施策があるんだから、それに対して何とか事業って入れるんですけど、その辺の担保というのはどのように考えていらっしゃいますか。

戸川補佐　３１年度の環境政策課の予算の要求として、この設備の修繕等にかかる予算として１千万円を要求をしてございます。提案された中で優先度の高いもの、予算のなかに収まるものを３１年度、実施していきたいなと考えております。それを数年かけて行っていく。あと、平成３１年度は前回の審議会でもご説明したとおり、難しいと思うのですが、このカーボン・マネジメント強化事業の今年度は１号事業ということで、１千万円の補助金の採択をうけて実施しているこの計画に基づいた設備更新については、３２年度までは国のほうで、２分の１の補助率ですけども補助金が出る予定でございますので、その辺活用できるかどうかをですね、検討してまいりたいと思います。ただその

補助金活用にあたっては、かなりハードルが高くて、全国的に先進性があるもので、更にピンポイントではなくて、広域的なエネルギーの利用まで求められているので、そこまでのものが出てくるかどうか、それを今回の国際航業に診断分析していただいて提案をしていただくという形になると思います。

廣瀬委員　来年度については、事業としては１千万程度を考えているということですよね。その次も計画期間がありますよね。総合計画との連動はどうなっているんですか。実施計画に入らないと事業ができないんですよね。前回、エネルギーでそういうことが起きましたけど、その辺は願望でもいいからどのくらいというのは言っておいてていただければ。

戸川補佐　今、このカーボン・マネジメントの事業は、環境基本計画等推進事業という実施計画の中で予算取りをしているんですけど、次の鎌倉市の実施計画の中で重点事業化をしていって、その中で予算取りをしていきたいなと、特にですね、建物を新築改修するにあたっては、新築の場合はＺＥＢですね。ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングを目指すような予算を獲得したいなと考えております。また改修するにあたってもＬ２－Ｔｅｃｈみたいな高効率機器ですね、そういうものを導入して、部の予算でも重点事業に格上げをしていただいて、その中で予算取りを出来ればなと考えております。

廣瀬委員　願望わかりました。私たちはこの場では、この実行計画の考え方について議論すればよろしいですね。

戸川補佐　はい。

猿田会長　予算がいくらでいくらかかってこれをやりますとは、まだなかなか言えません。予算決定権は議会との関係もあって、議会に上らず決めたのかと言われても困る。その辺は概算的なものは言えるんでしょうから、その辺でこれくらいかかる事業としての計画はあります、あくまでも計画段階でしかものは言えない。決定はまだできません。その辺はご理解ください。他に。

熊田委員　計画はご説明されてわかりましたけども、この仕事に対する市民の参画というのは何も考えてないのですか。市民は全くほっといていいのですか。

戸川補佐　この計画自体は、市の事務事業に関する計画ですので、直接市民の皆さんに関係する計画ではないのですが、ただ来年の８月の計画策定に向けて今後ですね、この計画をパブリックコメントに付すかどうかをですね、他市で計画を作っている状況等も勘案しながら検討していきたいと考えております。通常ですと、この市の事務事業に関する計画であると、狭い意味ではパブリックコメントに付すような計画ではないんですが、その辺を検討していきたいと考えております。

亀山委員　今後に期待しておりますが、１ページの背景のところで書かれていることに間違いは全くないんですけれども、パリ協定のあと地球温暖化対策計画でも語られるステップのところで忘れてはならないのは、より長期を目指しているということなんですね。対策計画で２０３０年度に２６％削減の他に２０５０年に８割減、それでパリ協定では今世紀末までに実質０というところを目指して動いている。ということは、つまり私たちが何か対策を取るときも、今までは５～６％削減という話をしてたからこまめに電気

を消しましょうとかそういうことを言ってたんだけれども、もうそういうレベルの話じゃなくて、やはりもう根本的にエネルギーの使い方というものを社会全体で変えていかないといけない段階にきてると思うんですよ。そういうところが１ページに少し表現されたらいいかなと思いまして。あくまで計画としては、２０３０年を目指していただいて構わないですけど、恐らくそれを過ぎるとより更なる削減が待ってることを前提としておけば、例えば、電気を原発が例にあがりましたけど、再エネだと思うんです。再生可能エネルギーをたぶん今後日本全体的に再エネを導入しないといけない時代がくることを念頭において、鎌倉市もエネルギーをどういうミックスで考えていくかを考えていかないといけない。２０３０年を超えた長期的なビジョンも含めた部分も背景としてこの計画を考えていただけるといいと思います。

猿田会長　ありがとうございました。大事なことですね。私からは１６ページの「施策４ その他の対策の推進」のところで「自動車からのＣＯ２排出量を削減していくため、電気自動車、天然ガス自動車などの環境配慮型の公用車の利用を推進する等の対策を行います。」とありますが、この中にロードプライシングなんかは一切考えないのですか。鎌倉は昔から問題になっているんだけど。

戸川補佐　ロードプライシングは、市の事務事業というよりは鎌倉市全域の区域施策編で論ずるものとなります。

猿田会長　いいんです。入れろといっているわけではなく、これは別個に分けるわけね。むしろ固定的なものを中心とした、施設とかを中心とした中で対応して行く。明確にしておかないとね。よろしいですか。他に。

小田委員　１８ページに削減目標が書かれているのですが、やはり施設分類になっていて、さっきの自動車の話など事業分類になっていないので、何か少し抜け落ちがないのかと思いました。

猿田会長　今日は「鎌倉らしさ」って国際航業がそういう言葉や考え方に対して何か対応できるのかどうか事務局で聞いてみてください。「鎌倉らしさ」というご希望があるんだけども、何かとしてそういうものに対応できる事があるんでしょうか。聞くだけでいいんです。やるかやらないか、出来れば入れてもらいたい。昔から鎌倉らしさというのは、大仏をお参りするだけが鎌倉らしさではないんで、何があるのかなという感じはするんだけど、わかったようなわからないような表現なんで難しいけれどね。

植地次長　その点については、推進体制の中で鎌倉市の職員としてどのような取り組みをしていくべきかを書く必要があると思っています。ですから、市の職員としてこういう姿勢で取り組んでほしいというご意見を頂けると、それを盛り込めると思います。当然私どもでもその点は考えて行きますし、ご意見としても頂けたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

猿田会長　それでは、次の「その他」何かありますか。

議題３　「その他について」

猿田会長　それでは議題３「その他について」事務局から説明をお願いします。

戸川補佐　それでは、２点ほど、説明いたします。

まず１点目です。本日審議会の会議録の確認につきまして、会議録の案を作成のうえ、内容確認の依頼を送付させていただきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

次に２点目です。今後のスケジュールですが、次回審議会の開催時期は、１月を想定しております。日程につきましては、改めて調整のご連絡をさせていただきます。

猿田会長　それではただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。他にご意見が無いようでしたら、「その他」を終了します。

それでは、次回審議会は、日程が決まりましたら事務局からお知らせください。よろしくお願いします。

以上で本日の議事を終了しましたので、閉会といたします。